

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2018-B1-007

(西暦) 2019年 3月 6日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2018年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

進学先 _____ 関西学院大学大学院神学研究科 _____

氏名 _____ 田代麻里江 _____

私が関西学院大学大学院神学研究科で神学の学びを志した目的は、施設および在宅医療における臨床チャプレンとなる備えをするためです。大学院での研究は、これまで実践してきた看護学の経験と知識・技術を土台とし、チャプレンとして深く取り扱う人間の霊性の理解を、キリスト教神学において追求し、神学と看護学を統合する実践神学へ発展させようとするものです。

この進学目的に基づき、この一年は聖書神学と実践神学を中心に授業を履修しました。春学期の履修科目は、聖書神学として「新約聖書学特殊講義 A」、「新約聖書原典研究 A」、実践神学として「実践神学特殊講義 A」、「説教学演習 B」、「教会実習 B」、「臨床牧会実習」、研究ゼミとして「研究演習 C」です。秋学期は、聖書神学として「新約聖書学特殊講義 D」、実践神学として「礼拝学演習 B」、「臨床牧会学特殊講義 B」「キリスト教社会実習」、「外国語専門書購読 B」、研究ゼミとして「研究演習 D」です。1年次終了時点で、卒業に必要な 32 単位のうち 26 単位を取得することができました。

研究ゼミ（修士論文）では、臨床チャプレンが行う「スピリチュアルケア」を神学的に説明する試みに取り組んできました。「スピリチュアルケア」は今や、現代の医療・福祉現場で必要性が広く理解され、その定義や方法論に関する研究は学際的に盛んに報告されています。しかし、その語源であり中心概念でもある「スピリット」そのものの臨床学的研究の報告は極めて乏しい状況です。日本語で「霊的ケア」、「魂のケア」とも言い換えられる「スピリチュアルケア」ですが、「スピリット」、あるいは「霊」、「魂」に関する理解が曖昧なまま、人々は感覚的にこれを受けとめている状態と言えるでしょう。

そこで私の修士論文の研究では、「スピリチュアルケア」の語源であり中心的概念である「スピリット」について、キリスト教臨床チャプレンの行う「スピリチュアルケア」に注目し、キリスト教の聖典である聖書においてその意味を探求します。現存する最古の聖書原典であるネストレ・アールント（ギリシア語新約聖書）と LXX（セプトゥアギンタ/七十人訳聖書/ギリシア語旧約聖書）を用い、「スピリット（霊）」のギリシア語である πνεῦμα（プネウマ）の言語学的用法分析が主な研究手法です。この度の奨学金で購入させていただいた Accordance という特殊な PC ソフトを用いて、前掲テキストにおける πνεῦμα（霊）の表出頻度、分布を観察し、各表出箇所における意味の研究に取り組んでおります。

πνεῦμα（霊）は新約聖書に 379 回、中でも史実的に著者が明確にされている 7 つのパウロ書簡に 120 回表出します。新約聖書において πνεῦμα（霊）は極めて頻繁に「神の霊」を意味する一方、「人間の霊」を指す場合にも用いられます。旧約聖書中には 350 回表出し、用いられ方は新約聖書と同様の傾向があるほか、「風」を意味する語としても日常的に使用され、「神の知恵」を表す σοφία と互換性があると考えられています。このように、πνεῦμα（霊）自体に複数の意味があり、このことが現代用語の「スピリット（霊）」の理解を難しくしている要因となっていることがわかります。

また、スピリチュアルケアをメンタルケアといかに区別するかの議論は、臨床学研究

にスピリット（霊）の定義が確立していない現時点では未だ不明瞭な状況におかれています。実際に聖書テキストにおいても、 $\pi\nu\epsilon\delta\mu\alpha$ （霊）が人間の感情や心の状態を表す際に用いられることもある一方で、精神や魂には $\pi\nu\epsilon\delta\mu\alpha$ （霊）の他に、 $\psi\upsilon\chi\eta$ （プシユケー）という語が用いられることもあります。そして、新旧両約聖書において、人間は肉体、霊、精神からなるという理解が広く見受けられます。新約聖書の書かれた古代ローマ時代にギリシア哲学の影響により二元論的人間観が生まれ、現代医学に継承されましたが、それ以前から存在する旧約聖書の人間観には、霊、魂、精神の間を線引きする思考はなかった可能性があります。このことは更なる研究を要します。

そこで次年度は、聖書テキストが書かれた時代の社会文化的影響を踏まえた $\pi\nu\epsilon\delta\mu\alpha$ （霊）の用法研究に取り組めます。また、 $\pi\nu\epsilon\delta\mu\alpha$ （霊）が出現する多くの箇所「神の霊」が人に直接働きかけ、人に生命力、神の思いを理解する知恵、敵対する者を超越する力などを与えるという記述が見られます。更に、人間が神から与えられた「神の霊」を他人に分け与えたる描写も観察できます。以上より、今後は、「神の霊」と「人間の霊」の間の力学的な関係性にも注目して分析を進めようとしています。

この「スピリチュアルケア」に関する研究は、神学的な言語学的分析で終わるものではなく、本研究結果を実践現場に生かす研究へと徐々に積み上げて行きます。実践研究の一例としては、キリスト教チャプレンが著す「スピリチュアルケア」の現象を本研究の成果を用いて分析し、この現象における「スピリット（霊）」が果たす役割の可能性をより現代的に説明することを試みます。それは、ケア提供者が対象者に「スピリチュアルケア」を提供する際、その行為における自らの役割理解を助け、確信を持って実践することへと導きます。また、本研究はキリスト教神学の立場から「スピリット（霊）」を研究していますが、他宗教や哲学的立場から得られる結果とともに、今後の臨床研究の発展を助けるものともなるでしょう。

今年度私は学生生活の傍ら、自身が理事を務める NPO めぐみコミュニティの訪問介護ステーションでチャプレン見習いとして、主にケア提供者である介護職員への「スピリチュアルケア」を担当させていただく予定です。職員自身の霊的健康を支え、職員一人一人が利用者の方々に日常的に「スピリチュアルケア」が提供できるよう支援ができることを願っています。同 NPO は、数年以内に訪問看護ステーションを設立する計画があり、今後は、看護と介護で「スピリチュアルケア」の実践と研究に取り組めます。さらに将来的に同 NPO はホームホスピスの立上げも視野にあり、地域の方々の高齢期と終末期の生活を支える全人的なケア提供を目指しています。そしてこの取組みが地域において継続されるように、後継者育成とネットワーク構築を視野に入れ、同 NPO による看護師および介護士の研修会や研究会を開催し、本研究の成果を踏まえた「スピリチュアルケア」実践を広く継承して参ります。